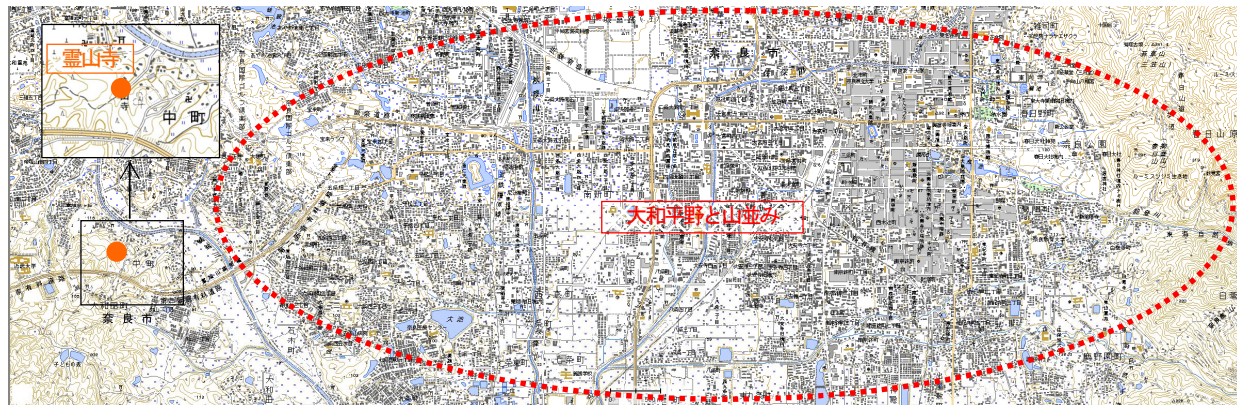
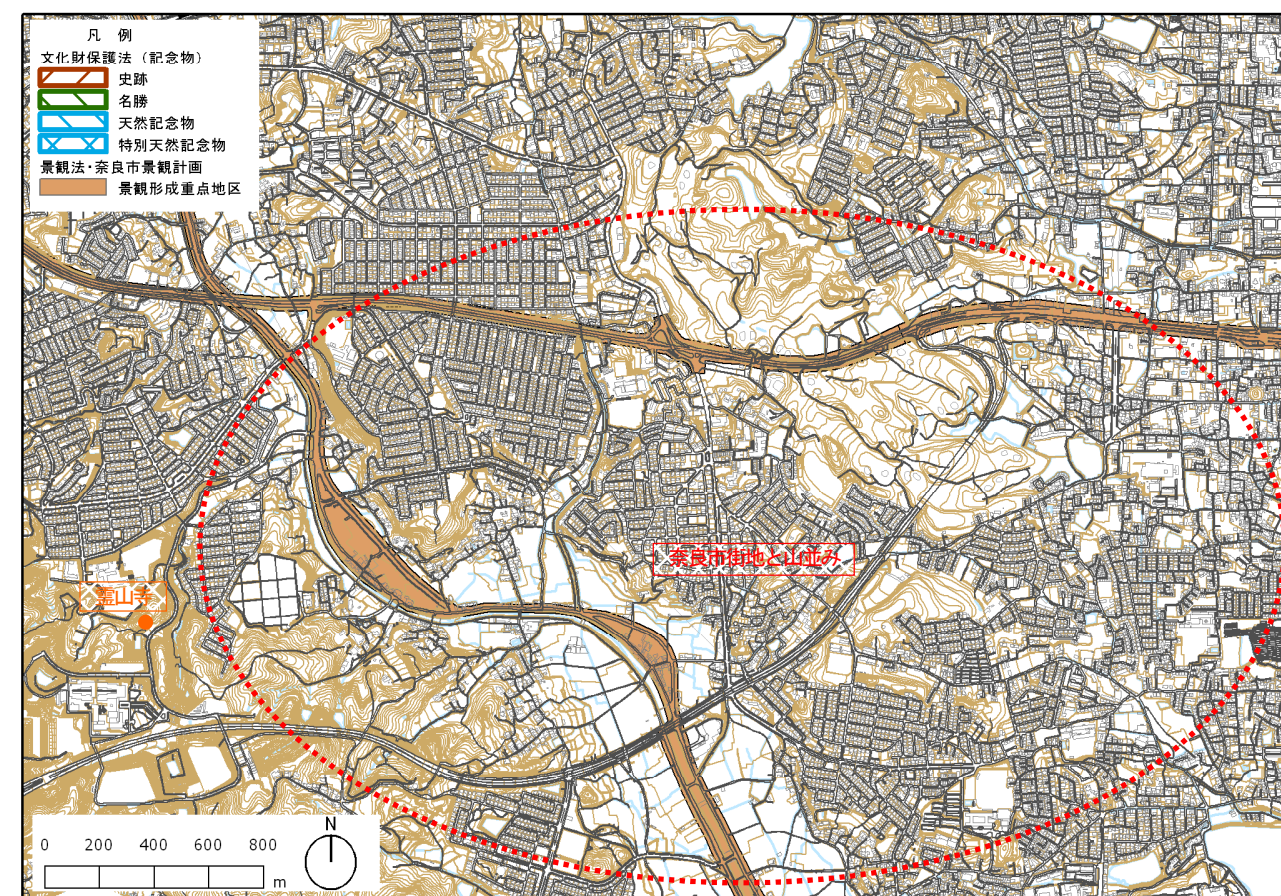
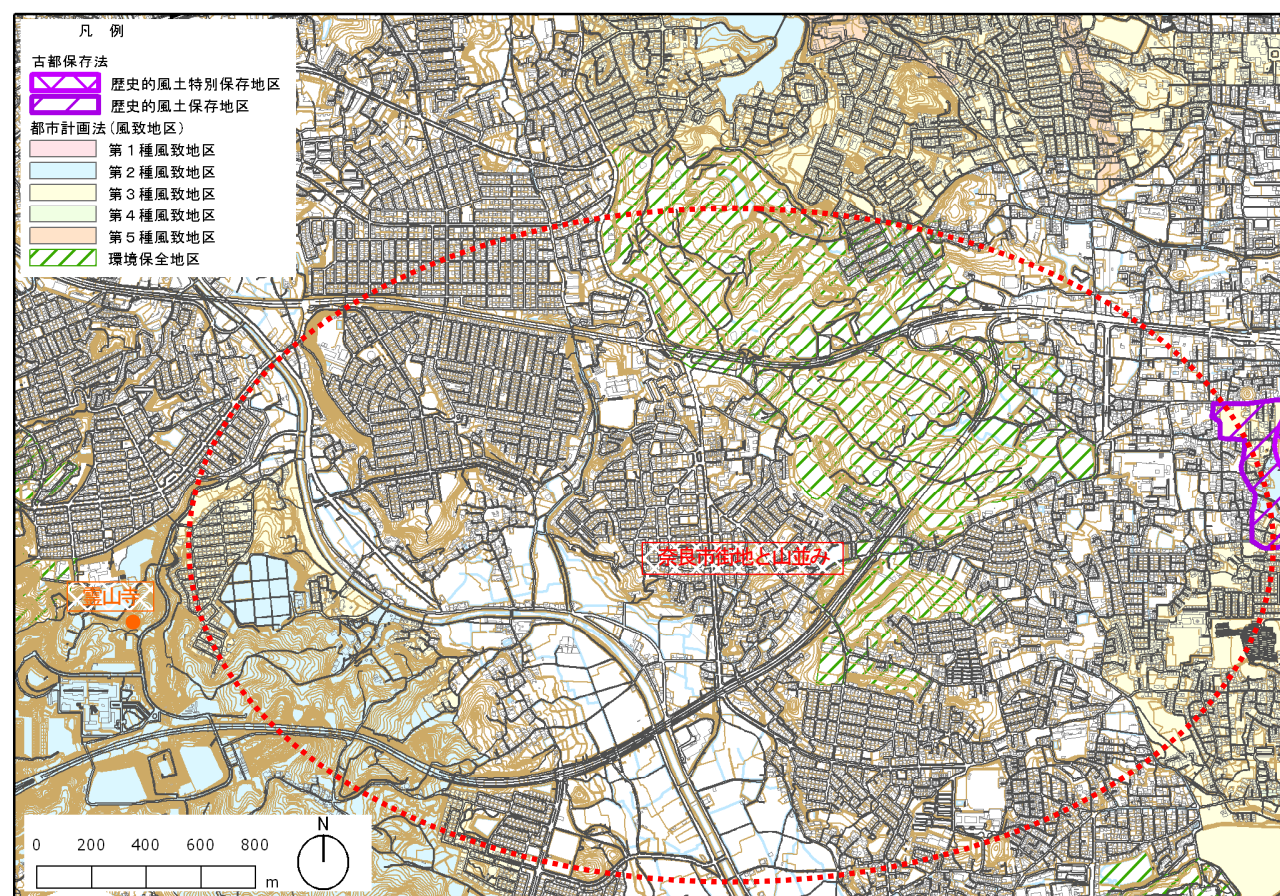
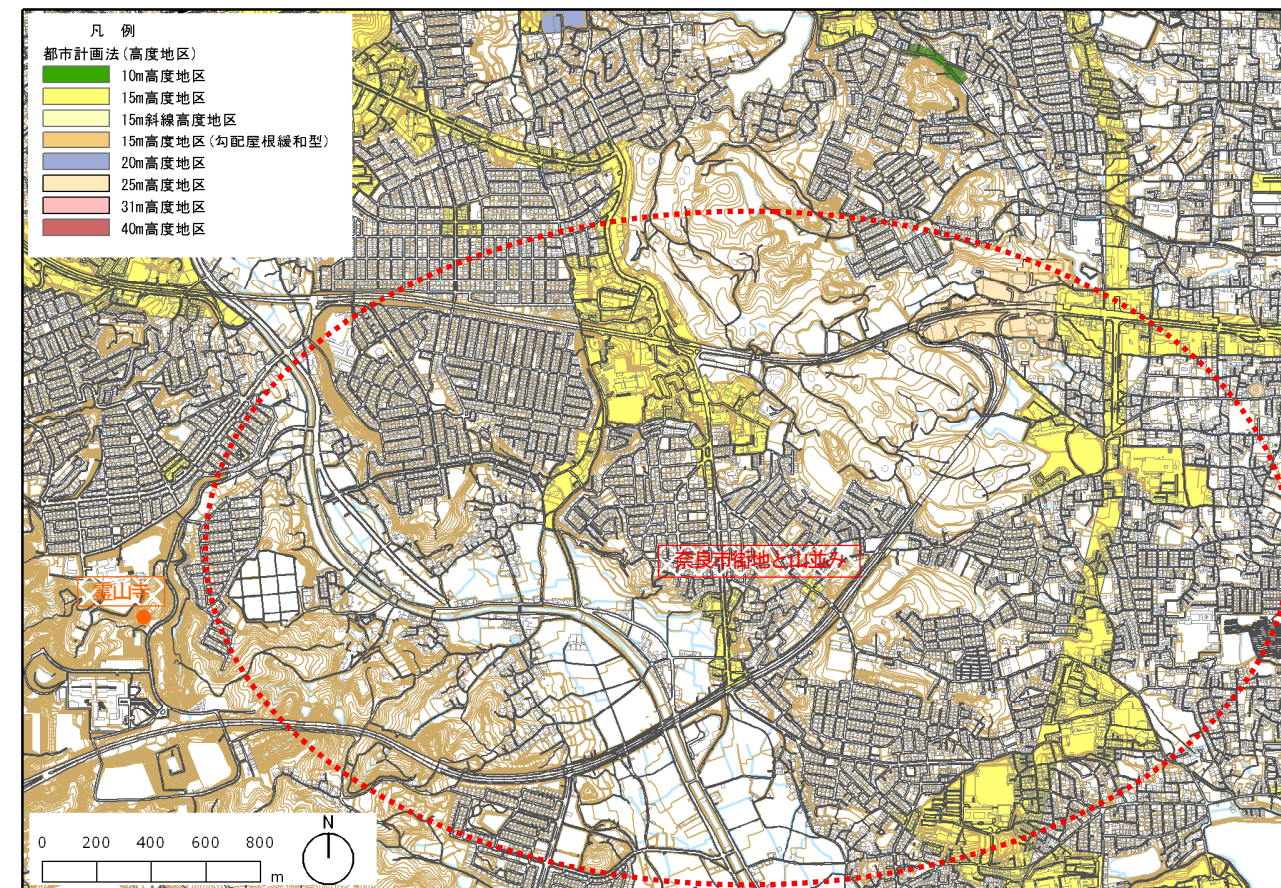
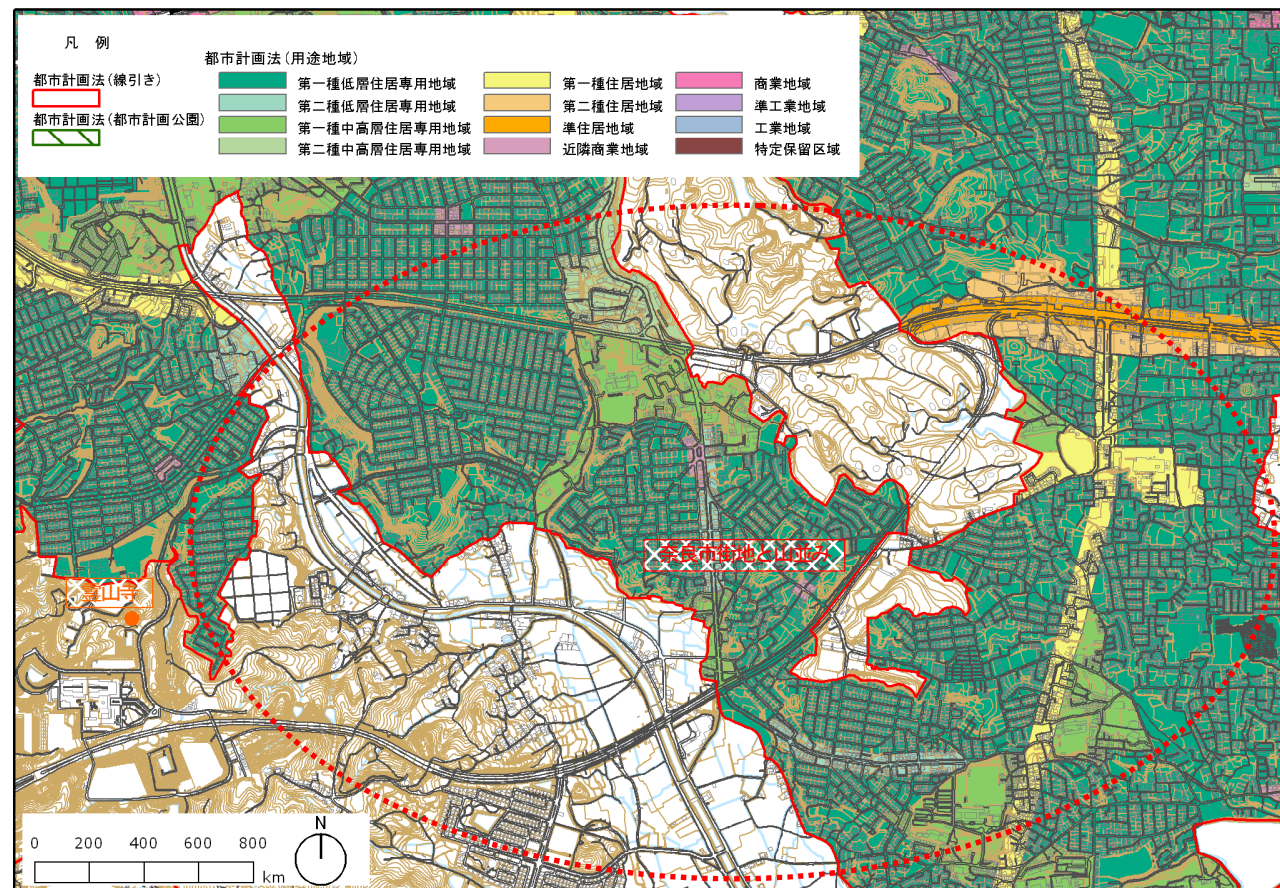
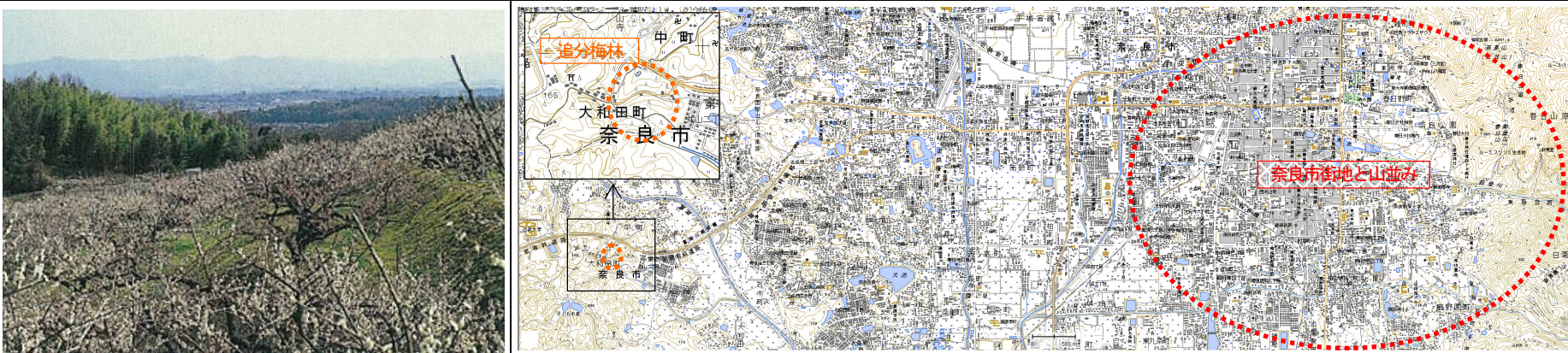


No. 40 霊山寺境内から大和平野及び山並みへの眺望			類	型		Ⅱ：広がり型眺望景観	
			視	点	場	霊山寺霊園境内	
			視	対	象	大和平野、山並み	
			眺 望 空 間	近	景	樹木、集落	
				中	景	農地、樹林	
				遠	景	樹林、山並み、農地	
目に見える景観の特性			近景の農地の広がりの方こうに農地の広がりや点在する集落、樹林を望むことができる。集落家屋は低層におさえられ、大規模な建築物や工作物等もみられないため、のどかな農村風景を享受できる。				
心で感じる景観の特性	歴史的背景	霊山寺 天平8年（736）落慶。平安時代、弘法大師が来寺し、登美山に力の強い龍神様がおられると感得され、奥の院に大辯財天女尊（弁天さん）として祀った。それまで当寺は法相宗であったが、弘法大師が真言宗を伝え、以後法相宗と真言宗の2宗兼学の寺となった。鎌倉時代には北条氏の帰依厚く、弘安6年（1283）本堂の改築、堂塔寺仏の修復新調が行われ、僧坊21ヶ寺という所説からも非常に栄えた。その後、豊臣秀吉の社寺政策により寺領百石を与えられ、また徳川幕府にも受け継がれ、御朱印寺として国家安泰と五穀豊穰そして幕府の武運長久を祈願してきた。明治維新の廃仏毀釈により、伽藍規模は半減、200 体以上の仏像が焼却された。現在は復興され、国宝重文建物6 棟、重文仏像宝物 30 余点を所蔵している。					
	民俗文化・生活文化 文学・芸術作品 説話・伝承	霊山寺 神亀5年（728）流星が宮中に落下し、大騒ぎになり孝謙皇女が征中の病にかかれた時、聖武天皇の夢枕に鼻高仙人が現れ、湯屋の薬師如来を祈念すれば治るとのお告げがあり、すぐに行基菩薩が代参。皇女の病が快癒した。天平6年（734）聖武天皇は行基菩薩に大堂の建立を勅命。天平8年（736）8月インドバラモン僧、菩提僊那が来日し、登美山の地相が霊鷲山にそっくりということから、寺の名称を霊山寺と奏上し、落慶となった。					
	眺望景観の構成要素の 関 係	—					
情報としての景観の特性	名所案内記 絵 図 等	霊山寺 寛政3年（1791）の「大和名所図会巻ノ三」に「霊仙寺」がみられる。					
	インベントリー	奈良盆地（大和平野） 「疏水百選」に選定されている。					
			守 る た め の 視 点		近景から中景に広がる農地は、市街化調整区域であり、一定規制はかけられているが、個別の農地転用などにより、視線を遮るような建築物等、広がりのある農地景観に馴染まない形態意匠等の建築物等が建設されるおそれがある。農地の保全ならびに建築物等の形態意匠等の景観誘導が求められる。 樹林の適切な管理が求められる。 （施策の方向性）A-1， A-3， B-1， E-3		
			整 え る た め の 視 点		眺望景観を阻害しているものはみられないため、特段の再生施策は求められない。 （施策の方向性）—		
			活 か す た め の 視 点		霊山寺自体は本堂が国宝であり、その他多くの文化財を有すこと、薔薇庭園があることで有名であるが、眺望景観の視点場としての認識は薄いと考えられる。また、視点場としての整備はされていない。情報発信や視点場の整備等による観光資源としての積極的な活用が求められる。 （施策の方向性）J-1， K-1		

法的 位置 付け



No. 41		追分梅林から奈良市街地及び山並みへの眺望		類	型	I：見下ろし型眺望景観	
				視	点	場	追分梅林
				視	対	象	奈良市街地、若草山等の山並み
				眺 望 空 間	近	景	追分梅林
					中	景	樹林
					遠	景	奈良市街地、若草山等の山並み
目に見える景観の特性		高台に位置しているため、奈良市街地と東部の山並みを一望できる。梅の季節は近景に梅の花が咲き誇り、より一層美しい眺望をつくりだす。					
心で感じる 景観の特性	歴史的背景	追分梅林 大坂と奈良を結んだ暗越奈良街道のルートにあたり、梅林のある追分集落には旧本陣の民家も残る。昭和43年(1968)に開かれた農業梅林であり、緩やかな両谷間の斜面に約4,000本の梅林が植えられている。開設に際しての雑木林の伐採、造成工事中に多量の古瓦が出土し、瓦は奈良時代のもので、興福寺創建期の瓦と同範のものが多く、平城宮でも出土する「田」「矢」の刻印を押した瓦もあった。基壇などの顕著な遺構は見つからなかったが、奈良時代の寺院跡であることは明らかであり、追分廃寺と名付けられている。 若草山 山容が菅笠の形をし、3つの嶺が重なったようにみえることから、通俗的に「三笠山」とも呼ばれてきた。若草山の名は「伊勢物語」で在原業平が「むさし野はけふはな焼きそ若草のつまもこもれり我もこもれり」と歌ったことに由来するとも言われている。東大寺山堺四至図によると、元々は樹木の茂った山であったことがわかる。山頂には前方後円墳である史跡鶯塚古墳があり、鶯山とも呼ばれる。					
	民俗文化・生活文化 文学・芸術作品 説話・伝承	若草山 毎年1月に、「若草山の山焼き」が行なわれる。若草山の山焼きの起源には、若草山山頂にある鶯塚古墳の鎮魂のためという説や若草山を年内もしくは翌年の1月頃までに焼かなければ不祥事が起こると考えられていたためという説、東大寺と興福寺との領地争いがもとであるという説、春の芽生えをよくするための原始的な野焼きの遺風を伝えたものであるという説などの諸説がある。 春季になると一帯では谷間に鶯の鳴く声が聞こえたことから以下の歌が歌われている。 「今もなほ 妻やこもれる 春日野の 若草山に うぐひすの鳴く」(中務卿親王「夫木抄」) 「すたつとも みゑぬものから 鶯の 山のいろいろ ふみも見ろかな」(「宇津保物語」)					
	眺望景観の 構成要素の 関 係	—					
情報としての 景観の特性	名所案内記 絵 図 等	若草山 「大和名所図会巻ノ一」(寛政3年(1791))、「奈良名所東山一覽之図」(幕末頃)、「いんばんや絵図」(明治3～15年(1870～1882))、「奈良名所細見図」(明治24年(1891))など、近世以来多くの名所案内記で紹介されている。					
	インベントリー	若草山 若草山を含む奈良公園は、「日本の歴史公園100選」「日本の都市公園100選」に選定されている。また、若草山の山焼きは「人と自然が織りなす日本の風景百選」に選定されている。 奈良盆地(大和平野) 「疏水百選」に選定されている。					
				守 る た め の 視 点		若草山は、歴史的風土特別保存地区、第一種風致地区、名勝奈良公園、史跡東大寺旧境内等として保存が図られている。また、高台から見下ろす眺望であり、近景には市街化調整区域、中景付近には第一種低層住居専用地域が指定されているため、視線を遮るような大規模な建築物等が建築されるおそれは少ない。従って、視対象、眺望空間については、新たな保全施策は求められない。 梅林の保全を図り広がりのある空間を保全すること、また、樹林の適切な管理を行うことが求められる。 (施策の方向性) B-1, E-3	
				整 え る た め の 視 点		近景の山林が竹林化しているため、山林等の適切な管理が求められる。 一部区域では第二阪奈道路が移り込む。 (施策の方向性) H-2, I-1	
				活 か す た め の 視 点		眺望景観の視点場としては十分に認知されていないと考えられる。また、視点場としての整備やアクセス道の整備はされていない。暗越奈良街道及び旧本陣、視点場南側区域の整備との連携を図った活用方策の検討が求められる。 (施策の方向性) J-1, K-1, L-1	

法的 位置 付け

